みんなで進めよう
茨城農業改革

茨城県農業総合センター
農業研究所 NEWS

No.282

2014／11／13

Ⅰ　研究成果の紹介（第3回）

平成25年度の試験研究主要成果（普及）について紹介します。詳しい内容は、農業研究所ホームページにも掲載してあります。ぜひご覧下さい。

★六条大麦「カシマゴール」の出芽期、茎立ち期、出穂期、成熟期予測法

麦類の高品質安定生産には、生育ステージに応じた適正な栽培管理が重要となります。そこで、麦茶用六条大麦新品種「カシマゴール」について、除草剤散布の目安となる出芽期、麦踏みの晩限である茎立ち期、追肥や赤かび病の適期防除に必要な出穂期、適期収穫のための成熟期の予測法を開発しました。

出芽期は播種後の積算気温で105.7℃、茎立ち期は出芽後の積算気温で556.3℃となる日です（図1）。最寄りのアメダスデータから0℃以上となる日平均気温を積算することで予測できます。

また、茎立ち期は主稈長・出穂期は主稈幼穂長を測定し、専用の予測ファイルに入力することで高精度に予測することができます。予測ファイルには茎立ち期予測用と出穂期予測用があり、農業研究所のホームページ（http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nourin/noken/）で公開しています。

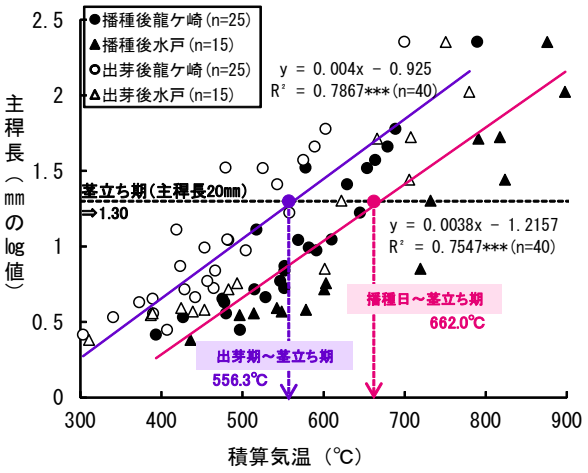

図1　播種・出芽後積算気温と主稈長の関係

成熟期は出穂後の積算温度で720.2℃、出穂後日数で44日となる日です（図２）。前述の出芽期等の予測と同様に、日平均気温を積算して予測します。

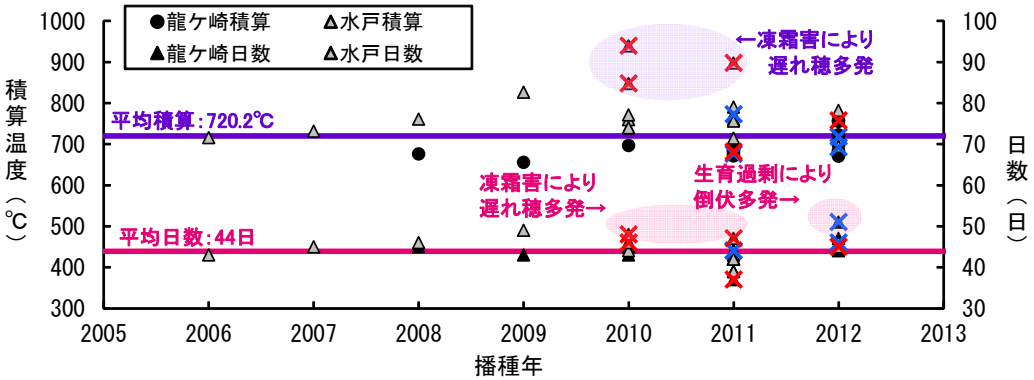

図2　出穂期～成熟期における積算温度及および日数

大豆有望品種「里のほほえみ」をテーマに、第４回主要課題現地検討会を開催

10月21日に筑西合同庁舎および筑西市現地圃場（筑西市二木成）において、大豆有望品種「里のほほえみ」の立毛比較、品種特性や大豆に係る情勢について現地検討会を開催しました。大豆生産農家、実需者、全農、JA及び関係機関等の職員ら約１００名の方に参加いただきました。

◆立毛比較

立毛比較は、田谷川協業組合長 川田誠一氏の圃場で行いました。10月の台風で倒伏はしているものの、「里のほほえみ」は「タチナガハ」に比べて葉の黄化が順調で、青立ちもほとんど見られませんでした。

川田組合長からは、「里のほほえみ」は青立ちが少なく多収。栃木県に続き、茨城県でも早く採用してほしいといったコメントを頂きました。

図2　「里のほほえみ」の立毛状況

◆品種特性及び大豆に係る情勢についての検討

作物研究室 青木主任より「里のほほえみ」は「タチナガハ」に比べ、耐倒伏性は同等で青立ちしにくい。最下着莢節位高が高く機械収穫適性が高い。収量は同等。百粒重が重くて高タンパクといった品種特性を報告しました。

JA全農 三谷氏より大豆に係る情勢についてご報告後、「里のほほえみ」及び県産大豆についての意見交換を行いました。実需者からは、「里のほほえみ」は、高タンパクで加工しやすく雑味が少ない。「タチナガハ」の代替品種にもなり得るとの評価を受けました。また、県産大豆については、実需者は原料の数量確保と適正価格の維持を重要視するので、産地には安定供給をお願いしたい。また、農産物ではあるが「食品」という位置づけで扱い、異物混入に注意して欲しい等、県産大豆の方向性を示す貴重な意見交換の場となりました。

図３　室内検討の様子

「里のほほえみ」については、来年度中の認定品種採用を目指してスピード感を持って対応するとともに、県を挙げて生産振興を図っていくことをまとめの言葉としました。

作物の生育情報はこちらから

農業研究所では、水稲・麦類・大豆・かんしょ・落花生の生育情報をホームページ（http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nourin/noken/）で提供しています。

編集・発行／茨城県農業総合センター農業研究所
〒311-4203　水戸市上国井町3402
TEL 029-239-7211(代)
FAX 029-239-7306
Eメール　nouken@agri.pref.ibaraki.jp
水田利用研究室
〒301-0816　龍ケ崎市大徳町3974
TEL 0297-62-0206
FAX 0297-64-0667